

東春日井郡初の病院を建てる



一九二八(昭和三年)十一月、東春日井郡勝川町(現・春日井市若草通)に、郡内初の近代病院である足立病院を開設した。深夜の往診など、助けを求めた人全てを受け入れることを信条に七十歳まで診察を続けた。貧富の差に関係なく、頼まれれば貧しい農家にも出向いた。

勝川町長だった父嶋と母むろの次男として生まれた。医師を志した詳しい動機は不明。長男で現院長の足立治夫さん(へち)は「困った人を放っておけない人だった。医者な



あだち

あきら

足立 聡

(1897~1971)



今も開設当初と同じ場所に立つ足立病院。親子3代で通う人もいるという=春日井市若草通で

深夜や暴風雨でも往診

ら多くの人々を救えると考えたのでは」と推測する。専門学校(現・名古屋大科大の付属病院に勤め始める。五月に卒業した後、同校ドイツのベルリン大に留め、思っような結果が得られないことで体調を崩す。猛勉強の末、県立医学から発展した県立愛知医学し、内科を専攻した。半年間、朝七時から夜九科、感染症のための治療室も設けた。連絡があれば今の春日井市だけでなく、岐阜県多治見市や名古屋市まで往診した。五九年の伊勢湾台風では病院に詰め、人が人を受け入れていた時、「子どもが熱を出した」という連絡が入り、暴風雨の中、自ら車を走らせた。

すほど研究に没頭した。その後、腸チフスなどの感染症が流行していた日本の患者のためにと、スイスのベルン大に移って細菌学を研究。二四年二月に博士の学位を得た。

同年十一月に帰国すると、再び愛知医科大付属病院に勤務。心臓病の教授に師事しながら細菌学の研究も続けた。診療と研究の両立は厳しく、「故郷のために尽くせ」との兄の言葉に動かされ、開院を決意した。当時は内科、外科だけでなく婦人科や眼科、泌尿器科、感染症のための治療室も設けた。

連絡があれば今の春日井市だけでなく、岐阜県多治見市や名古屋市まで往診した。五九年の伊勢湾台風では病院に詰め、人が人を受け入れていた時、「子どもが熱を出した」という連絡が入り、暴風雨の中、自ら車を走らせた。

ある時、病気で倒れた身寄りのない子どもを治療。病気は治っても行く当てがなかったその子を養子にし、成人し料理人として独立するまで面倒を見た。「優しさがにじみ出たエピソード」と治夫さん。院長室にこもることなく、いつも診察に向かった。治夫さんは「知識と時間を多くの人のために使いたかったのだらう」としのんだ。

(蓮野亜耶)